

第3回 美旗市民大学紙上講座



本年度はコロナウイルス感染拡大防止のため美旗市民大学講座を「美旗市民センターだより」の紙面にて、テーマを「美旗まち歩き」として展開しています。今月号は**第3回「新田水路をめぐる」**です。

②「竜王水」
地縁法人美旗まちづくり協議会が、市内唯一湧水の健全保全維持管理事業としてH26年に東屋と水路を整備しました。皆さんも一度訪れてみてくださいね。

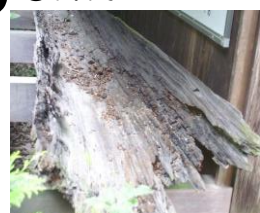


①新田水路全体

距離:13.7km(3里18町)
標高差:約140m



③「円形分水」
昭和になり青蓮寺ダムが完成し、その豊かな水をブレンドして使用している。この円形分水塔は水を公平に分配するだけでなく、濁水調整も行える機能的な分水塔です。



④「掛樋」かけひ
美波多神社に残されている当時のかけひ



新田開発の始まり 伊賀の加判奉行をしていた**加納直盛**は、伊賀の国には田が少ないので美濃が原(現在の美旗)に田を作るため、水を引くために滝之原と上小波田に二つの池を作るため、伊賀じゅうから、のべ2万9千人を集め1655年に工事に取り掛かり、大池と東ノ狭間池(とのはぎまいけ)が完成しました。近隣から入植者を募り、2年間の年貢の免除をしたそうです。

① 新田水路
この二つの池の相次ぐ決壊により、**直盛の子直堅**は、**青山の高尾**から水を引き水路を作ることにしました。これは大変な難工事です、夜中に提灯やたいまつの明かりで、高低差を見たりして作り、水不足に備えて途中で池(新田池)を作ったりしました。実にのべ1万3千人が協力したそうです。どの田にも同じように水を入れるために「**分水戸帳**」を作り、時間を厳格に守りました。これは現在も守られています。*資料A
森現在の新田水路は、**埋管(まいかん:地中に管を埋める)**工事が終わっている箇所が増えていきますので、昔の状態ではありません。*場所は中央の図参照

美濃波多新田開発関係年表

1654年(承応3年)	新田開発出願 入植者募集
1655年(承応4年)	大池 東ノ狭間池完成 東ノ狭間池決壊
1658年(明暦4年)	新田池完成
1661年(寛文元年)	大池の決壊
1675年(延宝3年)	新田水路完成
1677年(延宝5年)	加納神社 社創設
1731年(享保16年)	
1977年(昭和52年)	青蓮寺ダムより 通水

新田の人たちは、およそ365年間、この水路を守ってきました。
2月には水路の水漏れ等を水利組合員が修理し、4月になると、溝さらえをし、水を流す通水試験をし、水を流します。その後は毎週水路の点検を二人一組でします。9月の稲刈りが終わると、井出落としをして高尾の井出口からの取水を終えます。

来月号は、**第4回「郡境、東田原」**です。